

議 事 録

会議の名称	令和4年度第3回フラワータウン再生アクションプラン推進委員会
開催の日時	令和5年3月9日(木) 午前10時00分から
開催の場所	フローラ88 3階 フローラホール
出席した委員、アドバイザーの氏名	久高委員長、杉崎副委員長、角野アドバイザー、水野アドバイザー、笹倉委員、山下委員、岡田委員、福井委員、出合委員、佐々井委員、前田委員、谷舗委員、高田委員、福本委員、瀨本委員、金澤委員、植平委員、印藤委員
欠席した委員の氏名	赤澤アドバイザー
出席した庶務職員の職及び氏名	作倉都市政策室長、都市政策課：榎本課長、門内担当課長、四ノ宮係長、岡
傍聴者の人数	なし
議題	・協議事項： フラワータウン再生アクションプラン VOL.01(案)について
公開・非公開	公開
使用した資料	・次第 ・協議事項： 資料①「フラワータウン再生アクションプラン VOL.01(案)」に対して委員から提出された意見書の内容とそれに対する市の考え方について 資料② フラワータウン再生アクションプラン VOL.01(案)
連絡先	まちの再生部 都市政策室 都市政策課 電話(079)559-5127 内線2821・2822

1 配布資料の確認

2 開会

<門内担当課長の司会により開会>

<開会に際して久高委員長の挨拶>

3 会議の公開・非公開

4 議事録作成の取り扱い

5 議事録署名人選出

6 傍聴人の入室

7 協議事項： フラワータウン再生アクションプラン VOL.01(案)について

<事務局から資料に基づき説明>

委員長

ただ今の事務局から報告がありました説明に対して、ご意見、ご質問等がある方は、名前を名乗ってから発言をお願いします。

アドバイザー

今回はアクションプランということで作成頂いていまして、私自身、来年度はしっかりとキックオフプロジェクトを通じて取り組みを進めていける体制づくりというのが非常に重要ではないかと思っています。アクションプランの2ページのところ、この取り組みを進める推進体制ということで今回しっかりと記載して頂いていますが、やはり各部会の取り組みそれぞれで皆様がされていることを総合力に変えていくということで、今まで限定的なメンバーで運営されていた幹事部会みたいなものをラウンドテーブルとうような形でオープンにして、相互に意見交換しながら取り組みを進めていくことは非常に良いことだなと思いつながらお聞きしておりました。

このラウンドテーブルというように話し合いを進めていくことは結構重要なところかなと思っていますけれども、この辺りをもう少し具体的に、何か例えば年間どのくらいの頻度でやろうかなとか、こんな感じでやろうかなということがもしあれば教えて頂きたいというのが1点でございます。

あと、今は4つの部会がありますが、やはりそれぞれの部会の取り組みが外部に見えるような形になっていくということが大切かなと思っています。フラワータウン再生ということで、ビジョンができて、アクションプランができてということで、その辺りは市民の皆さんにも伝わっていると思いますけれども、何か誰が何をやっているのか分からないみたいなことになってしまうと、やはり市民の皆さんの関心も薄れていってしまうかなと思いますので、それぞれの部会の取り組みをいかに外に発信していくか。

また3つ目ですけれども、それを受けて私も参加してみたいわみたいの方をどういうふうにごこの中に取り込んでいくのか、これは市民の皆さんだけではなくて事業者さんであったりとか色々な立場の方がおられると思いますけれども、新しく入ってみたい、私もやってみたいというようなときに、どういうふうにご一緒にやっていくような形が作れるのか、その辺りがポイントになってくるのかなと思いつながらお聞きしておりました。

事務局

大きく分けて3点ほどご意見頂いたと思います。

まず1点目、ラウンドテーブルの開催の頻度と進め方についてのご意見であったと思います。

今回のアクションプランの序章部分に初めてこのラウンドテーブルについて記載したところでございます。暗中模索の中でしていくということになっていこうとは思いますが、今年度設立しました当委員会の4つの部会の情報とか課題の共有の場として幹事部会を位置付けております。

この幹事部会にラウンドテーブル型のコミュニケーションを導入していこうというふうにご考えております。

現在、そのラウンドテーブル型の幹事部会については、様々な主体が携わるということを企図しております。我々行政もその一員として同じ立場で参画していこうと考えているところでございます。

ところが現在の幹事部会は、どうしてもキックオフプロジェクトというものが行政課題の解決のためというふうになっておりますので、行政主導で会の進行、実施をしています。

来年度からは行政ではない第三者による会の進行であるとか調整も実施していきたいと考えています。

将来的にはラウンドテーブル型の幹事部会が独立した組織、エリアプラットフォームと言いますか、そういうものになっていけばなと今は考えているところです。

開催の頻度でございますが、例えば2か月に1回であるとか定期的な開催ができたらなと考えております。

それと2点目、4つの部会の取り組みの発信についてだと思えます。

住民の方々、あるいは事業者の方々に対して、どういう取り組みがフラワータウンの中で行われているかを伝えるというところでございますが、フラワータウンでこんなことが行われているんだ、楽しいまちだな、あるいは私にもこんなことができるんじゃないかなと思ってもらうことは大切だと私どもも認識しております。その為には、委員がおっしゃったようにフラワータウンの活動、あるいは取り組み、魅力、こういうものを住民の方々あるいは事業者で伝えていく必要があると思えます。

再生ビジョンの具体的な取り組みの12、こちらにフラワータウンの関心度を向上させるための活動の展開というものを掲げておまして、これもまだ想定範囲ではございますが、例えば、昨年設立しましたセンター地区活性化部会の中でイベントを実行していく委員会を組織しておりますが、そこでインスタグラムを設けており、これにより情報発信するであるとか、これは費用との相談になりますけれども、紙ベースの機関紙やチラシを定期的に発行し、住民の皆さまに配布するであるとか、そういうところも検討していきたいと考えております。

それと3点目、新しい方々をどう巻き込んでいくかというご意見であったと思えますが、新しく取り組みを進めていく中でこういうことなら私もやってみたいなという方がおられましたらまずはまちづくり自分事部会の中で受けてこれを取り組みに繋げていく、そして先ほど申し上げましたラウンドテーブルの中で、場所をどうしていくか、あるいはどういう時間帯でやってみるかという具体的な話に実行力を付けていくような話し合いが行われることを想定しています。

委員

取り組みが前に進むために、2 ページ目の推進体制のところか各ページに渡るかもしれませんが意見がありまして、この委員会の一番最初だったかに推進体制の表を示して頂いていて、その中で部会の構成員というのが明示されていたと思えますが、アクションプランになるともう少しビジョンのときくらいのスケールの構成をする団体、例えば、地域は自治体、まち協、みたいなもので民間事業者とか少しアバウトになってしまうと思えます。パズルのピースだけで示していると具体的に部会がどういうメンバーで進められているからより効果的にこうアクションが進むよというのが少しぼけているかなと思まして、2 ページに表現するのがいいのか、もしかすると各部会の最初のページに、アクションプランは何回か、ビジョンによりもう少し高頻度に更新されるものだと思うので、こういう構成員で進めていくのでこの課題が具体的に進みますよということが明確になるといいのかなと、逆にいうと構成員を適性にしないと推進しないのかなと思ますので部会の構成員についてももう少し記すとともに適正なメンバーにちゃんと入ってもらってそれぞれの部会が動くように進めるということが次年度以降は大事なかなと思しました。

事務局

委員がおっしゃっているのは、アクションプランの例えば3 ページでは、パズルのピースを用いて活動主体を示しています。また、令和5年度の取り組みの中でも同様のパズルピースを使って示しています。

これは再生ビジョンと同じレベルであって、アクションプランはもう少し具体的に示したほうが良いのではないかとのご意見であったと思えます。

今日のアクションプランを構成している中で再生ビジョンとの関係性を出したかったというところで、デザインと主体を一体的にするためにビジョンから準用してきました。再生ビジョンに沿った取り組みですよということを強調したかったということでこのような表現にしておりますが、おっしゃる通り再生ビジョンはどちらかという大きな方針といいますか取り組みの考え方をお示したもので、アクションプランはそれに実行力を持たせる具体的な取り組みをしたためのものであることから、活動主体をもう少し具体的に書いたほうがいいのではないかとすることはご意見の通りだと思います。

例えば3ページの主体のところのパズルピースで、地域であれば住民、自治会であるとか民であれば民間事業者であるとか再生ビジョンと同じレベルで書いておりますが、今後新たな主体を巻き込んで行くことや、主体の具体化について注釈であるとかその辺りで対応をさせて頂きたいと思っております。

アドバイザー

今の件に関してですが、アクションプランを実際に推進していくために具体的な主体、組織が明記されていることは結構なのですが、ただ一方で、この人らがやるんだなというふうに、他人事に思われてしまう恐れもあるのでそこは表現に気をつけてほしいなと思っております。

今年度実際に様々な主体が関わって個々の事業を行ったわけですから、今年度の動きについてはこれこれこういう主体で実施したという紹介があっても良いと思っておりますが、その上で、5年度についてはこういう主体を中心としながら、そこに更に新しい人たちも巻き込んでいく、あるいは主体的に関わってほしいというメッセージを加えておくことが必要かと思っております。つまり、先ほどアドバイザーが言われていたことにも配慮しないと、「一部の人がやってくれるんだ、有難いな」と思われてしまい、参加者の枠がひろがらないおそれがあるのではないのでしょうか。

委員長

確かに非常に大切なことだと思います。本当にみんなで取り組んでいこうという姿勢でございますのでこの人がやってくれるであろうということになってしまわないように事務局の方で内容を整理して頂きたいと思っております。

委員

今武庫が丘で一番困っているのはコロナ禍によって地域の活動がとことんまで落ち込んで、特にコミセンの利用者が半減以下にもなっています。こういう崖っぷちの実情を強く認識して何か効果的なアイデアを絞り出している所です。

今日説明された報告でコロナによってどこまで活動がダウンしているか、そういう認識も持たれたらどうかと思います。

武庫が丘ではコミセンは今まで連合自治会が担当していました。毎年連合のメンバーが入れ変わり、持続可能な体制が出来ず、コロナで低迷したコミセンを立て直す対策がなかなか立てられない状況が続いていました。今年の4月からまちづくり協議会がコミセン運営の委託を引き受け、再生対策を立てることにしました。やはり、色々効果的な対策というのは土壇場まで追い詰められないと出てこないと思っております。自分事の提案を色々出すのには、現場に入って住民の不満を深掘り分析し、何が問題なのかを明確にして、そこから色々なアイデアを出して頂いた方が良いのではないかとと思っております。

委員長

今後部会の中で色々な話を進めていく中で、委員の言われたように本当に一番何がそこにいる人が困っているかということ吸い上げながら取り組んでいかなければならないと思いました。

今後の進め方の中で今話して頂きましたご意見の内容を踏まえながら進行をさせて頂きたいと思います。

アドバイザー

今のお話を聞いて、コロナ禍から学んだこととか、その教訓ということが一言も書いていないことに気が付きました。たとえば、行動制限を強いられるなかでコミュニティセンターでの活動が減った、しかしその一方で、例えば地元と都会を行き来する日常生活だけではなくて、地域活動や新たなライフスタイルへの関心も高まっていますし、屋外空間の魅力も顕在化しました。我々がコロナから何を学び、それを踏まえてどうすべきかというような文言があると、これらのアクションプランがタイムリーに時代を見ているというような評価、共感を持ってもらえるのかなと思いました。

事務局

このアクションプランの中に現在の社会情勢であるとか、あるいはポストコロナ、コロナの影響というのが都市構造、人の行動などに多大な影響を与えているということが一切抜けているというご指摘でございます。

コロナの影響で人の行動、感覚が変わってきた、委員がおっしゃったように屋外空間での使い方や過ごし方が変わった、あるいは就業体制の変化、コワーキング、テレワークが普及した。また、都心へ出なくても地元で過ごすようになったというような行動形態にも変化が出てきていますので、その辺りをアドバイザーの言葉をお借りしますがアクションプラン策定にあたってタイムリーになるような、時代に沿った言葉が残せるような文章をどこかに加えることを検討します。

委員

先ほどアドバイザーがおっしゃった注意ですが、誰かがやるんだなという事にはなっていけないというは肝に銘じてやらないといけないと思いますが、テーマによりまして自分ごとなのか、逆に言いますとよそのしてることを言ってもらったところで、お前がやるんちゃうやろというようなことの空気にもなりかねないので、テーマによっては全体を考えるときにおっしゃられるようなことをやらないといけないと思います。

1番とか2番とか3番、私は2番のモビリティは、ちょっと車であちらこちらを走ってみて感じましたが、よその団地、まちと比べたらほとんど坂がないんです。そうするとはやはりモビリティを使うくらいになると生活そのものが無理やなということですね。歩いて100m、200mで行けるような、そういうような条件が違うので、参考までに何も禁止にはしませんけど、努力する人たち、検討する人たちはやはり自分の事で何かやろうとしているということに対してオブザーバーで参加するなり、あるいはこの総会がありますから、そういうプロセスを説明することになると、弥生であんなことやっている、そうかい成功例があるな、僕らもこうしようかということで気付きになれば良いかなと思ひまして、ご高配頂いていますけど、ちょっとこれは自分事によそのものを入れてやるのは難しいなという気がしていますがいかがでしょうか。

アドバイザー

内容によっては当然関わり方が違ってきます。ですので、まさにこの事業については、行政はこういう役

割を持ちますよ、民間企業はこういう形でできるというようなことを例示できると良いのですが、一つ一つ全部を細かく書くのは難しいと思います。それぞれのアクションプランを実施する時に、この事業はこういうフォーメーションでやろう、この事業についてはこういう組織建てでやろうというようなことを、アクションプランの実施計画の中でしっかり意識して頂ければいいかなと思います。

委員

色々ご説明していただきましたが、意見にも書きましたが利用者の立場に立って何が良いのかという視点がもう少しあってもいいのではないかと思います。例えば、失礼な話かも知れませんが、センター地区への商業施設の誘致活動、もちろん皆さんは努力されていると思うのですが、例えば、このビルの中にはこういう魅力があってデザイン的にこういう楽しいところがあるとか、期待せずにもそうだと思います。というふうな魅力を発信するような何か活動というか、PRの仕方、良く分からないところもありますが、必要ではないかと思います。

はっきり言いまして、今コミセンで非常に悩んでおりまして、今の会議室のような雰囲気では子どもさんがあそこで遊べと言われても、何かりノニウムの冷たいところで絵も何も描いていないところでそういう催し物をすると何かちょっとちぐはぐな感じがしています。

例えば去年のイベントの感じですけども、もっと広場を、駐輪場とか、これを撤去するとか、イベントをやりやすいデザインをもっと考えてですね、極端に言えば、今のセンター地区の感じは何か色彩的に暗い感じがします。これは私の個人的な意見ですが、ウディタウンのような明るい雰囲気、あれを何かこのセンター地区に醸し出せないものかなと、何かやはりデザインの問題もありますし、イベントの時でも沖縄の踊りを狭い空間で踊っているようなものではなくて、もっとイベントに適したようなスペース作り、デザインを考えていけばと思います。要するに利用する、入場する方の魅力をどういうふうに発信していくかということをもうちょっと考えて頂けたらなと思います。抽象的で申し訳ございません。

事務局

私から2点について答えさせていただきます。1点目、コミセンの会議室の雰囲気などについてですが、この件については、委員の方から事前に意見を頂いているところでございます。2点目の意見のイベントの会場をイベントがしやすいようにデザインしてはどうかというご意見にも繋がりますが、一度使ってみてそこでやはりこういう場所ではやりにくいであるとか、こういうふうに改造した方が良いですよとか、やってみてハード整備に繋げていくことが、我々が考えている社会実験の一つのテーマであると捉えております。

昨年開催しましたイベントの話がされたと認識しておりますが、例えば舞台や屋台を出してかなり狭かったと、人が滞留する時間はあったが、場所が少なかったという課題も見えてきております。その課題をこの社会実験をした中で抽出をして関係者と共にどう解決していくか、ハード整備に繋げていくかということに今後検討がしていると感じています。現在、各テーマ別の部会を組織しておりますのでその中でも話をしていくということを企図しているところでございます。

副委員長

コムスはフローラ88の運営とか近隣センターの運営をさせて頂いておりますが、委員の方からの意見にも参考でしたけど近隣センターの活性化等をやってほしいというご意見もありました。弊社としましてもなかなかフラワータウンに居場所がないという話も色々伺っていますので商業施設に皆さんがゆっくりできる

場所を今後作っていききたいなというように思っておりまして、ここで色々な具体的な案を出すことはできませんが、イベントは今後も続けていきたいと思っておりますので、ご理解とご協力をお願いしたいと思いますので、引き続きよろしく願いいたします。

委員

先程コメントしましたが、まち協が武庫が丘コミセンの運営を、連合から委託を受けてやることとなります。その再生のアクションプランを作ることに腐心しています。コロナ禍でコミセン利用者が半減になりましたが、ほとんどの利用者はシニア層だったんです。3年のコロナ禍というのはシニア層にとっては6年くらい経ったような感じです。いざ再生を立案するに当たっておそらくシニアの方を中心にした活性化を期待したら再生は無理かということで、働く人とか、学生さんとか、ファミリー層とかを中心にアプローチできるようなプログラムも追加しようとしています、特にここ3年は土日に事務所が開いておらず、予約受付も出来ない状況です。それをまずは土日の事務所を開けて、そういう働く若い世代の方が使いやすいコミセンに持って行こうとしています。これの実現には、現場ではボランティアの募集も含め色々なアクションプランや課題をクリアする必要があります。

事務局

委員の意見にもありましたように、コロナの影響が大きいこと、それと4月からまち協さんにコミセンの運営が委託されるとお伺いしております。今まではシニア層を対象にしていたというところで、今後コミセンの活性化をするには、働いておられる層であるとか、あるいはファミリー層、若年層、そういうところにアプローチしていきたい、そのためにまずは今休館されています土日を開けてみようという試み、これはまさに自分事部会の取り組みになってくると思います。もちろん当委員会の中でも自分事部会の中でも個別具体的な活動内容につきまして深掘りできれば良いと考えています。具体的な内容につきましては、相互理解と横断的な情報共有をする中でこういうアイデアはどうだとか、あるいはこういう取り組みはどうかというものも出てこようかと思っておりますので、引き続き連携していけたらと考えております。

委員

コミセンを活動拠点にしてこれから地学協働という形で、学校の関係者や研究グループがコミセンで講座やイベントを開いて、地域の方々の現場のコメントを直に聞いてもらうような活動も地学協働の活性化に寄与するのではないかと思います。コミセンを情報源としてもっと積極的に使って頂ければと思います。

委員長

フラワータウン再生で全体エリアからすればセンター地区、商業施設が中心に近いですが、各住区でいえばやはりコミュニティセンターが各住区の核でありますので、コミュニティセンターのあり方みたいな話は今後のまちづくりの中で十分に配慮してほしいなと思います。

委員

自分事部会を来年度以降実質的に回していくときに、窓口を明確にして周知しておく必要があるかなと思っています。というのも昨日有馬高校の高校生がフラワータウンのまちづくりについて人博等周辺にフィールドワークに来ていました。自分事部会のことを紹介したら高校生がもしか自分達でやりたいことがあつ

たらどこに言ったらいいんですか、と質問をしてくれました。おそらくまちでこんなことをしたいとかこんなことできないかなと頭の中でもやもやと考えている人は割と潜在的に沢山いらっしゃるって、それは色々な世代に渡っていると思います。そういう人たちが一回ここに相談してみようと思えるところを実際に動かしていく時には、それがあはることはすごく大きいかなと思うので、私のアイデアとしては一枚もののチラシみたいなものを作って置いてそこに自分事部会でこういうことに取り組んでいますとかこういうことができますよとか、いくつかの例示があはるそれが色々なコミセンもそうですし、周辺のショップもそうですし、フラワータウン市民センターもそうですし、人博とか色々なところで置かれていって、なおかつこのアクションプランの協議会の皆さんが自分事部会に関連があはるような事を誰かが聞いた時に、パッと配れるようにしておくと、その波及効果は割と出てくるのではないかなと思います。そういうふうにして誰か相談に来れるということを意識的に少なくともこの1年くらいはやるのが良いかなと思います。

そしてそういったことをやりつつ、定例のミーティングみたいなものは月に1回くらいあると固定メンバーではなく、新規でこういうことをやりたいという人も来てくれる可能性が高まっていくと思いますので、これからの自分事部会の回し方のところで初めの窓口を分かりやすい窓口でそこから入ったら中は広くて何か多様な人がいて色々なやり方があるというのが仕組みとして割と理想的かなと私は思います。

事務局

まちの中での様々な取り組みについて、まずは、自分事部会で受け付けますと言いながら、ではどこで受け付けてくれるのかという意見であつたと思います。一義的にはフラワータウンの地域担当、そこが行政としましては一つの窓口になると考えております。ただ、おっしゃるように受付してくれる所がどこなのかが分からない、周知できていないということで今ご意見、アイデアを頂きましたけれども周知していく手法として、例えばチラシを作って活動してみたいなという方にはパッと渡して、一度ここに相談に来てくださいとお誘いする、こういう体制づくりというのは当然来年度以降必要になってくると思いますので、ご助言頂ながらチラシ作り、体制づくりなどにご協力頂けたらと思います。

委員

一つは前回の会議でも申し上げたことですが、本来理念的に考えたときに、このニュータウンというはコミュニティの計画があはる、それを都市計画として反映、具体化をしていくというふうなプロセスで出来上がったまちであると理解をしております。

色々とお話を頂いていますように今まさに社会の構造、コミュニティが変わろうとしている、それからまちも年をとってきてまちの姿も変わらざるを得ないというふうな中で、やはり当たり前のことではありますけれど、まちの姿が変わっていくというのと、コミュニティが変わっていく、あるいは変えていくということとシンクロさせていかないといけないだろうと思います。その上で今日のご意見を頂きましたけれども、やはり主人公は今お住まいの皆様方であろうと思っております。

この再生計画もいわばこれまでの議論というのは地図で言えば10,000分の1くらいの縮尺で議論されてきたと思いますが、今後は2,500分の1くらいの目線に住民の皆様方がいま現に住んでおられるまちをどういうふうにする、あるいはそれを今後どういうふうにするかというところをもう少しミクロな視点で具体的に明らかにしていく。そしてそのうえで、それぞれのコミュニティごとにどんな姿にしていくのかということをもとめていく作業というのがそろそろ必要なかなという気がしております。

そういう意味で私どもは、まちづくり協議会さんを中心にして地域計画の策定というようなことをお手伝

いさせて頂くことを一つミッションとして持っておりますが、こういった機会を是非活用させて頂きたいなと思います。

それからもう一点は、委員の皆様から頂いたご意見にありましたが、今後どうやってスピード感を持ってこれを進めていくのかということと、それから自分事として色々な方の参画をどういうふうに進めていくのか、ということとをどういうふうに調整していくのかという非常に大きな課題があると思います。

今回、このプランを拝見していても今後色々な協議の場が実質的に立ち上がってくるとは思いますけれども、一方でスピード感を持って少数の方でこれを進めて行こうとすると、非常にその少数の方の負担も重くなってくるということもあると思います。具体どうだと言われるとなかなかご提案は難しいですが、多くの方の意見、参画を頂く場と、それからそれを具体的に引き落としてくる場とのメリハリを付けながら合意形成を図っていくというところを改めて考えていかないといけないなという印象を持ちました。

そういう意味では私どもの地域担当と並んでまちづくり協議会さんに一つの場づくりというところは是非一肌脱いで頂けたら有り難いですし、私どももそこをしっかりと応援をさせて頂きたいなと思っております。

委員

今意見を聞いていましてやはりなるほどなと思うことがございます。

委員からご提案、ご意見があったように学生さんが先日人博でもありました某大学の発表会を見させて頂きましたけど、こんな事も研究をしてくれているのかというようなヒントを得ましたし、また今日有馬高校の話も聞きました。是非こういう方のお声をさえずりでも結構ですので自分事部会に来てもらい言ってもらえると年寄りには分からない新しい感覚があるので是非それくらい広げて逆にオブザーバーでどこかからヒントがもらえたら、西垣所長のところに行ったら、そしたらあそこに行くようにと言ってもらえると良いなと思いました。

それから大きな考えですけどやはりこうして成熟したまちになってきたらこのフラワータウンで一番大事なことは、何かやらしてもらおうと思って会議をしていますけども、僕ら住民が心してやらないといけないことは、例えばこの商業施設がしんどいからとの話題がここにも出ていますけど、一方的に商業施設に言ったところで企業としてはイオンの計画ではここダイエーがいつまであるかも分からないような状態が見えてきていますよね。こんな時にやはり使う側の僕らも業者を育てる気持ちを持ってはいるけれど、偉そうなことは言えませんが、少しでも困ったことを助けてくださいばかりではなしに、自分達もそちらをサポートする、何かを支援するというようなことのお互いのウィンウィンができるような、地域に貢献して地域を立ち直らせる、弥生の自治会に入っていたらメリットがあるよと、何かアイデアを見つけて自分たちのまちを万分の1でも良いからそのお手伝いをする、ものをただ普通に買うのではなく地産地消ではないけど自分のまちにあるこの商店が廃れないようにしないといけない気持ちも自分自身自戒を込めて今日感じました。

委員長

最後に地域住民の方からの意見として自分たちのまちは自分たちで守っていかないといけないものもあるということを委員から言ってもらって頂き本当に嬉しく思います。これだけのメンバーが一同に会しているということは凄いことだと思います。学識者の先生方、人博の先生方、住民団体、交通事業者の方、民間事業者、行政機関、これだけの主体が揃っていることはもの凄くまちづくりにとって有効的であると思いますし、大切にしていきたいと思っています。

では意見も多数出て、今後の取り組みについて協議もできたと思われしますので、本日の第3回フラワータ

ウン再生アクションプラン推進委員会は終了したいと思います。今日ご意見を頂いておりますので、この後VOL.01の(案)に少し修正が入るということによろしいですね。

事務局

ご意見の内容について、事務局の方でもう一度確認させて頂きましてこのアクションプランの中でどう反映をしていくかを検討させて頂きたいと思います。その後取り急ぎ、修正あるいは加筆したものを今一度委員の方々にご確認頂きたいと考えておりますので、その時はまたよろしく願いいたします。

以上